

なかなか思いを言葉にすることができない昔気質の範義さん。悦子さんの前では恥ずかしくて言えない感謝の気持ちを語ってくれました。

初めて会ったときのことは、今でも覚えています。水俣の喫茶店「きくや」で会った彼女は、とても真面目そうな娘に見えました。一目見て、一緒にやる決心をしたんです。

結婚して埼玉に家を建て、3人の子どもに恵まれました。私は、仕事ばかりで子育てや家事に協力することがほとんどできませんでした。特に関東にいるときは、出張や単身赴任での仕事ばかりでした。それでも、私は家族のために仕事をしていました。家族を養っていく責任がありました。家族を養っていく責任がありました。家族を養っていく責任がありました。

妻が倒れたことは、とてもショックでした。少しでも早く病院に連れて行くことができたなら。今でも後悔は続いています。妻はもともと血圧が高かったし、私が苦勞をかけていたことで倒れてしまったのかもしれない。しかし何も言えませんでした。「ごめんね」という言葉が口に出せないんです。これも性格な

んでしょうか。

妻は、倒れてから左半身が不自由になりました。頑張ってリハビリをする彼女を陰から見守りました。炊事洗濯などの家事もこつちがするのではなく、してもらうことでリハビリになれば——と思いました。今ではリハビリの甲斐もあり、元気になってくれてとてもうれしく思っています。やはり、命あってこそものですから、妻には感謝の気持ちでいっぱいですね。

妻と出会って43年になります。とても長い時間ですが、上手く話せないことも多いものです。私は口下手ですからね。でも、これからは自分の口から「ごめんね」や「ありがとう」って言葉を妻に言いたいと思っています。

子どもたちは立派に成長し、6人の孫にも恵まれました。そして妻も元気になってくれる。本当に今が一番幸せだと思います。だから、元氣なうちに2人で旅行に行きたいですね。そしてこれからのことを2人でじっくり話しながら、これまでの感謝の気持ちも伝えたいですね。

今は庭いじりが趣味という範義さん。話す内容は、全て悦子さんの話。悦子さんから聞いた内容と違いがありません。それは、43年の長い結婚生活の思い出が2人には流れているからなのでしょう。

範義さんに「幸せですか？」と尋ねると「はい！もちろん！」と最高の笑顔が返ってきました。輝きは増し続け、常に今が一番輝いています。

言いたくても言えない「ありがとう」
今が一番幸せ。妻に感謝しています。



かまたのりよし
釜田範義さん
(杉水)

第二部 命、輝く

命は自分のものだけではないから、
そのためにできることがある。
友達のため、恋人のため、
そして家族のために—

